

Title	第五十輯の刊行に寄せて
Sub Title	In celebration of the 50th issue of Bulletin of the Shido Bunko Institute
Author	佐藤, 道生(Sato, Michio)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2015
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.50 (2015. ) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本英史前文庫長・川上新一郎教授退職記念
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 第五十輯の刊行に寄せて

『斯道文庫論集』は本冊を以て第五十輯を迎えた。顧れば、斯道文庫は昭和十三年麻生太賀吉氏の寄附により福岡市に設立された。その蔵書七万冊が慶應義塾に創立百年を祝して寄贈されたのが昭和三十三年のことである。これを承けて義塾では同文庫の設立趣旨に相応しい研究機関の新設を計画し、昭和三十五年十二月一日附を以て、東洋古典の書誌学研究を目的とする附属研究所斯道文庫を創設するに至った。そして、『斯道文庫論集』は文庫員の研究成果発表のための年刊機関誌として、昭和三十七年三月に第一輯が刊行されたのである。その巻頭を飾る松本芳夫文庫長の「創刊の辞」には、古典研究の意義が簡潔明快に説かれている。曰わく「人間の不幸を避けるには、人間の生活のまことの道を教える正しい思想の確立以外にはない。そのためには、われわれの敬愛する先人ののこしてくれた古典の調査研究がその基礎作業とならなければならぬ」と。五十年前のものとは思われない、先行き不透明な今の時世にそのまま向けて発せられたような言葉ではないか。

爾来、五十輯に及ぶ『斯道文庫論集』の歴史は、五十五年にわたる斯道文庫の具さな記録でもある。この間、本誌に掲載された論文は二百九十本を数える。文庫員及び嘱託研究者によって発表された学術的成果は、和漢書を対象とする戦後の書誌学研

究の歴史と言っても言い過ぎではなからう。

論集の第一輯から本輯に至るまで全論考に一貫して保たれているのは、書籍を実際に見て物を言う研究姿勢である。千里を遠しとせず見に行く。これが斯道文庫の誇るべき真骨頂である。インターネットの普及によって、書誌学の研究環境は著しく変化した。書籍の画像はキーボードの操作によって居ながらにして見ることができるようになり、原本を実地に調査する意義は大きく後退した。これは書誌学の衰退に繋がりがかねない現象である。今、斯道文庫が直面している課題は極めて大きいと言わなければならない。文庫員及び関係者一同は、五十輯の達成に慢心すること無く、次の目標に向けて努力する覚悟を新たにしている。読者諸賢の御支援をひとえにお願い申し上げる次第である。

最後に、今年度末で定年退職される前文庫長山本英史先生のことに触れておきたい。先生は文学部の東洋史学専攻の御所属で、中国近代史を専門とされている。明清時代の文献を扱う関係から書誌学に対する造詣も深く、平成二十一年七月から二十六年九月まで斯道文庫長を務められた。この間、平成二十二年には文庫創立五十年の各種記念行事を滞りなく遂行するという大任を果たされた。山本先生と私との付き合いは二十数年前に溯る。平成六年から七年にかけて共に在外研究の機会を与えられて中国・北京大に滞在したとき、半年間寝食を共にしたことがある。先生は中国に不慣れな私に日々有益な助言を与えて下さったばかりか、北京市内のあちこちにある図書館や研究所に連れて行って下さった。その行動たるや、精力的と称するのが最も相応しく、早朝から出かけて一日に三箇所、四箇所と閲覧に廻ることもしばしばであった。懐かしい思い出である。今後も斯道文庫を暖かく見守っていただければと思う。

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長 佐藤 道生